

ツイッター一組長
山口組分裂、なう

先発投手は前夜控えるのか？
女子プロゴルファーは エッチすると腰が…
あのフィギュアスケーターは処女なのか？

世界30か国美女の
秘部を密撮！

グラビアに奇跡が起きた！超ゴージャスSEXYY水着・ヌード満載号
大場久美子
有森也実
GOROのヌードわが青春の15人袋とし
2015年ヌード写真集大賞、脱いだり15人
袋とし
3とし

下ろし
55歳信じられないピキニ
展覧会
座談会
ぐつちーさん×小幡績×吉崎達彦
もしかしたら2016年日本の景気は最高潮
元県知事が
爆弾証言
いよいよ見納めです
49歳の艶
山田佳子
この人が
妻だったらと
何度も妄想
しました

2016 JAN
1.1/8
スーパープレミアム合併特大号
450yen
大予言 2016日本の天国と地獄
野村克也「プロ野球新人監督はこれを読め」
感動の最終回「下町ロケット」
高島彩の大スクープ記事を本誌に掲載します
大研究
あと5年頑張れば
死なずに済む病気
一流企業「同期の年収格差」エッ！こんなに開いちゃったの！
多部未華子「マン喫SEX」ほか



死ねまでSEX
そしてオナニー好きAV女優が体験モニターしてヨガリまくった
女性用TENGA新製品「irohata」を讀者100名にプレゼント
今年最後の大コ
美熟女AV女優20人「今年一番感じたプライベートSEX」
本誌が選ぶ2015年「キス女優アワード」
石原さとみ「寸止めキス」波瑠「あさがキス」
袋とし
2とし

医学界は加速度的に進歩のスピード

あと5年 死なす

こんなに あるぞ!

肺がん 肝臓がん 膵臓がん

特効薬、iPS細胞手術、検査機器、医療口

がん新療法が続々待機中
ついに「若返り薬」まで登場!?!
90歳、100歳は当たり前前の時代が来る



手術をサポートする医療ロボット「ダヴィンチ」

今後は「近い将来、肺がんでも適用される予定」(前出・河上教授 だという。
■肝臓がん
年間約3万人が亡くなる
肝臓がんにも光明が差し込

肝臓がんの約7割はC型肝炎ウイルス(HCV)の感染が原因で、HCVに感染すると慢性肝炎、肝硬変、肝がんへと進行する。
つまり、肝臓がんにならないうためには、端緒であるHCVを退治することが重要だ。従来の標準治療は抗ウイルス薬(インターフェロンの注射だったが、効きにくいウイルスの型や副作用があり、課題が多かった。
国立国際医療研究センター

「15年5月、HCVを直接攻撃する画期的な配合薬が登場しました。インターフェロンの効かない型にも有効で、治験でのHCV排除率は100%に達しました」
肝臓がんに進行しても有効な治療法が登場している。それは「ナノナイフ」だ。がん細胞に2〜6本の針を刺し、3000ボルトの電流を流してナノサイズ(1ナノメートル10億分の1メートル)の小さな孔を開け、がん細胞を死滅させる治療法だ。
東京医科大学病院消化器内科主任教授の森安史典氏が解説する。

「小孔からがん細胞の細胞質が溶け出し、がん細胞がアポトーシス(自然死)します。周辺の血管にも小孔が開きますが、数日〜数週間ですべて再生するので肝臓の働きに影響はありません」
従来の治療法よりも再発リスクを低くできることが

を上げている

頑張れば に済む病氣



脳卒中 **大動脈解離** **心筋梗塞** ほか

ポット——臨床試験はもうそこまできている

今は治療法が確立されていない病でも、5年後なら——そんな期待を抱かせる、多くの興味深い研究が世界各国で進められている。がんや脳卒中、心筋梗塞などの病で命を失う人を一人でも救いたいと願って研究を続ける医学界の最前線をレポートする。

がんを「虫」が「早期発見」

医療の世界は日進月歩だ。医療経済ジャーナリストの室井一辰氏がいう。

「臨床研究から実用化、広く普及するまでのスピードは上がっている。今はまだ治療法が実用段階になくても、5年もあれば治るようになる病氣は多いはずだ」

エイズの治療は近年、飛躍的に進歩した。投薬治療の副作用は以前よりも減り、HIV感染者でも適切に薬を服用すればエイズを発症せずに一般人と変わらぬ生活を送れるようになった。「死の病」から「長く付き合う病」に変わりつつある。11月に米国でHIVに感染していることを告白したハリウッドスターのチャーリー・シーンもその1人だ。かつてのエイズのように

「5年頑張れば、死なずに済む病氣」は少なくない。

■肺がん

国内で年間約7万2000人が命を落とす肺がん治療で注目を集める新薬が「免疫チェックポイント阻害薬」だ。

人体に備わっている免疫細胞は異物や細菌などを攻撃し、身体を病原体から守る。これまでの抗がん剤はその攻撃力を高めるものが主流だったが、一方でがん細胞側には、免疫細胞からの攻撃を弱める「PD-L1」というタンパク質が備わっていることが最近の研究で明らかになった。要は抗がん剤で免疫の「アクセル」を踏んでもがん細胞側が同時に「ブレーキ」を踏

む状態になっていた。

慶応大学医学部先端医科学研究所所長の河上裕教授が解説する。

「このブレーキを破壊すれば、免疫細胞はがん細胞を効果的に攻撃できます。『免疫チェックポイント阻害薬』はブレーキ役の『PD-L1』を無効にするよう働きかけます」

米製薬会社「プリストル・マイヤーズ スクイブ」の研究では、この新薬は肺がん患者の死亡リスクを既存の抗がん剤より4割も減らしたという。

点滴投与のため、手術の難しい肺がんで特に効果が期待される。最も死亡者数の多いがんでもあるため、肺がんへの研究が優先的に行なわれている。

日本ではすでに世界に先駆けて「免疫チェックポイント阻害薬」の実用化が進んでいる。小野薬品工業が開発した「ニボルマブ（商品名・オプジーボ）」が「悪性黒色腫（メラノーマ、皮膚がんの一種）」の新規治療薬として承認された。

注目されており、国内では
ナノナイフは肝臓がんで19
症例を実施し、高い効果を
得ている。

■**脾臓がん**

脾臓がんは早期発見や手
術が難しい。投薬治療も体
への負担が大きく、「最も
治りにくいがんの1つ」(前
出・森安教授)だ。そこで
近年、手術でも投薬でもな
く、「細胞の遺伝子操作」
というアプローチが期待さ
れている。米ペンシルバニ
ア大学が中心となって研究
する「キメラ抗原受容体T
細胞療法(CART)」だ。

これにはがん細胞を攻撃
する免疫細胞のひとつ、「キ
ラーT細胞」が関係する。
「CARTでは、このキラ
ーT細胞を遺伝子操作する
ことで、がん細胞から発生
する特有のタンパク質に反
応するように変化させます。
遺伝子操作されたキララー
T細胞は、がん細胞を狙い
撃ちするので、がんの進行
を止めることができます。
脾臓がんにも効果が確認さ
れており、実現が大変期待
されています。5年以内に

は承認の早い欧米で実用化
に向けて動き出すでしょ
う」(前出・室井氏)

■**進化する「医療ロボット」**

手術支援ロボット「ダヴ
インチ」は、3D内視鏡や
7つの関節を持つロボット
アームを備えており、危険
を伴う精緻ながん手術を容
易にする。操作は「自分が
患者の体内に入って手術し
ている感覚」(ダヴィンチを
使用した医師)だという。

高額のため限られた機関
にしかないが、5年後はさ
らに普及すると考えられる。
■**「線虫」で早期発見**

がんは早期発見が肝心だ。
15年3月、九州大学など
の研究チームは、「線虫」
に人間の尿を嗅がせ、がん
の有無を判定させる論文を
米科学誌に発表した。

線虫を入れた容器にがん
患者の尿を1滴垂らすと、
線虫はその尿にびたっと寄
りつく。逆に健康者の尿か
らは逃げるように離れる。
体長約1ミリの線虫は嗅
覚が鋭く、研究チームはが
ん患者の尿の微妙な違いを
嗅ぎ分けたと推定する。



がんを匂いで判別する「線虫」
(写真提供/九州大・広津崇亮助教)

研究チームが242人の
尿で実験したところ、がん

石原裕次郎が苦しんだ病気も

がん以外の「三大疾病」
にも新治療法が登場した。

■**脳卒中**

脳卒中(脳血管疾患)は
脳の血管が詰まる「脳梗塞」
と脳の血管が破れる「脳出
血」「くも膜下出血」に大
別される。

全体の7割を占める脳梗
塞は、意識障害や片方の手
足のマヒなどが起こる。血
管の詰まり(血栓)が原因で、
時間とともにマヒなどが大
きくなり、早期の治療開始
が極めて重要だ。

従来は発症から4時間半
以内に薬物を注入して血栓

患者の発見率は95・8%だ
った。がんの種類は嗅ぎ分
けられないが、尿検査だけ
で「がん疑い」がわかれば、
がん検診の受診につながる。
研究チームの九州大学大
学院・広津崇亮助教が今後
の見通しを語る。

■**心不全**

日本人の死因第2位であ
る心不全(心疾患)。一般
的に心筋梗塞を発症後、心臓
の機能が低下することで動
悸、息切れが起こり、症状
が悪化する。

大阪大学では心筋梗塞の
発症後、特定のタンパク質
(ペリオスチン)が心臓の機
能を弱め、心不全をもたら
す仕組みを解明。さらにそ
のタンパク質の働きを弱め
る抗体を研究し、ラットの
実験で効果を得るまでに至
っている。ペリオスチンの
働きを弱める薬を開発でき
れば、心不全の発症を防げ
る可能性が出てくる。

「10年に認可された『血栓
回収療法』です。血管にカ
テーテル(細長い管)を入れ
詰まっている血栓を『回収』
します。この方法は脳梗塞
発症から8時間までは大き
な効果が見込めます」

治療開始が遅れても、命
が助かる可能性が上がった。
「今のところ手術を行なえ

■**大動脈解離**

古くは石原裕次郎も苦し
んだ「大動脈解離」。あま
り知られていないが、死に
至る可能性が高い病気だ。

大動脈は心臓から送り出
された血液が最初に通る大
切な血管で、外膜、中膜、
内膜の3層構造になってい
るが、何らかの原因で最も

日本ツアー年間獲得賞金額
2億3049万!
 日本プロゴルフ
 史上最高額!!

ゴルフ賞金女王
イ・ボミのおしえ

うまくなりたければ
**イ・ボミに
 習え!!**

素顔にも
 迫ります!

日本での初優勝からわずか3年。才能を開花させ賞金女王に輝いた、かわいくて強いイ・ボミ選手初めるの著書。ゴルフが強くなら、「なぜ?」に答える一冊です。



●価格:本体880円+税
 978-4-07-403407-9

主婦の友社 www.shufunotomo.co.jp
 0120-916-892



IPS細胞の研究を進める
 山中教授

糖尿病を「完治」できる

内側にある内膜に亀裂が生じ、中膜にまで血液が流れこんでしまう。発症すると激痛に襲われ、最悪の場合大量出血で亡くなる。

■糖尿病
 国内で年間約1万3000人が亡くなる糖尿病。I型糖尿病は生活習慣とは「無関係」に、血糖値を下げる働きを持つインスリン

この病気には、従来の治療法の欠点を補う高性能な「治療薬」が開発された。「従来、血管の内側に人工血管を挿入する治療法があったが、亀裂部分を完全に塞げなかった。しかし、15年10月に発売された高性能の人工血管は、亀裂を完全に塞げるようになった。普及には数年かかると思いますが、救える命は増えるでしょう」(前出・室井氏)

療すべく、山中伸弥・京大教授が所長を務めるiPS細胞研究所は、iPS細胞などの幹細胞を使ったβ細胞の作成に心血を注ぐ。すでに米ハーバード大学などのチームがヒトの幹細胞からインスリンを分泌する細胞を作成することに成功している。この細胞を手術で人体に移植すれば、インスリン分泌の機能が回復するかもしれないのだ。そうなれば、I型糖尿病の完治も夢ではない。

■若返り薬
 最後に夢のある話を。米・ウォールストリートジャーナルなどによると、寿命を延ばすとされる薬「メトホルミン」の臨床試験をアメリカの米食品医薬品局(FDA)が世界で初めて承認した。元々、糖尿病の治療薬として広く使われていた

が、英カーディフ大学の研究者が調べたところ、この薬を投与された糖尿病患者が、他の患者より平均8年も長生きしたことから研究を始めたのだという。研究者は投薬により人間の老化を20年遅らせる効果があると主張している。山野医療専門学校副校長で医学博士の中原英臣氏も興味津々だ。「メトホルミンは世界中で古くから使われている安価な薬です。医療の世界では、薬が本来とは違う効果を持つことは多々あるので、ひよっとすると……」